

1 学校教育

女性 58歳 両下肢障害 北海道

50年前ころ小学4年か5年

小学校では体育はいつも見学で通信簿の体育の欄には斜線がついていたが、友達がドッジボールなどをしているのを見ているのはおもしろいし応援するのも好きだった。自分は学校では体育をしなくても良いものと思っていた。ところが、休み時間に友達数人がいっしょにドッジボールをしようと誘ってくれ、私のために特別ルールを考えてくれた。そのルールだと、ドッジボールの本来のスピードが失われてしまい、たぶん他の人たちにはあまりおもしろくなかったと思うが、私をいっしょにと誘ってくれた気持はとてもうれしかったし、同じところにいられるのはとても楽しかった。自分には無理と思っていた事でも、少し工夫すれば一緒にできるかもしれないとわかったという意味では、とても大切な経験をさせてもらったし感謝している。子どもは「足どうしたの。」と問いかけてくる無邪気な残酷さがある反面、誰かのために特別ルールを作ってしまうというような柔軟な考え方もできるものだと思う。そんな柔軟な考え方が誰でもできたら、障害を持っている人も生きやすくなると思う。